



CAR システム レポートの設定

CAR には次の 3 レベルのユーザに対応したレポート機能があります。

- 管理者：ロード バランシング、システム パフォーマンス、およびトラブルシューティングに役立つシステム レポートを生成します。
- マネージャ：予算編成またはセキュリティを目的とする場合や、コールの音声品質を判断する場合のコール モニタリングに役立つユーザ、部門、および QoS に関するレポートを生成します。
- ユーザ：自分のコールに関する課金情報レポートを生成します。

この章は次の内容で構成されています。

- [QoS レポートの設定 \(P.6-2\)](#)
- [トラフィック レポートの設定 \(P.6-11\)](#)
- [クライアント証明書コード レポートの設定 \(P.6-17\)](#)
- [迷惑呼詳細レポートの設定 \(P.6-21\)](#)
- [優先コール要約レポートの設定 \(P.6-22\)](#)
- [システム概要レポートの設定 \(P.6-24\)](#)
- [CDR エラー レポートの設定 \(P.6-25\)](#)
- [関連項目 \(P.6-26\)](#)



(注)

ユーザの職責によっては、この章で説明する各レポートへのアクセス権が与えられていない場合があります。

QoS レポートの設定

CAR 管理者だけが QoS 詳細レポートを生成します。このレポートは、指定した期間中に Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発着信されたコールについて、QoS 評価を詳細に示します。

QoS 要約レポートは、マネージャまたは CAR 管理者が生成します。このレポートは、指定したコール分類および期間に関して、QoS グレードの分布を表す 2 次元の円グラフを提供します。また、コールを QoS ごとに要約した表も提供します。CDR と CMR に含まれているコール詳細、および P.4-6 の「QoS 値の定義」で指定した QoS パラメータが、コールに特定の音声品質カテゴリを割り当てるときの基準になります。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-8 の「CAR システム スケジューラの設定」を参照してください。

QoS パラメータの演算子

表 6-1 に、QoS レポートの生成時に使用する QoS パラメータの演算子を示します。

表 6-1 QoS パラメータの演算子

演算子	説明
>=	指定した値よりも大きいか等しいジッタ、遅延、または喪失パケットに関してデータを生成するには、この演算子を選択します。
=	指定した値と等しいジッタ、遅延、または喪失パケットに関してデータを生成するには、この演算子を選択します。
<=	指定した値よりも小さいか等しいジッタ、遅延、または喪失パケットに関してデータを生成するには、この演算子を選択します。
N.A.	ジッタ、遅延、または喪失パケットのデータを排除するには、この演算子を選択します。
Between	ある値ともう 1 つの値の間にあるジッタ、遅延、または喪失パケットに関してデータを生成するには、この演算子を選択します。この演算子を選択すると、2 番目のフィールドが表示され、開始値と終了値を設定することができます。

次の各項で、QoS の詳細、要約、ゲートウェイ、およびコール タイプの各レポートを設定する方法について説明します。

- [QoS 詳細レポートの設定 \(P.6-3\)](#)
- [QoS 要約レポートの設定 \(P.6-5\)](#)
- [ゲートウェイ別 QoS レポートの設定 \(P.6-6\)](#)
- [コールタイプ別 QoS レポートの設定 \(P.6-8\)](#)

QoS 詳細レポートの設定

この項では、システムの QoS に関する詳細情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [System Reports] > [QoS] > [Detail] を選択します。

[QoS Detail] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Select Call Types] 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。
表 6-2 で、コール タイプについて説明します。

表 6-2 QoS 詳細レポートのコール タイプ

コール タイプ	説明
On Net	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、トランク経由で送出され、別の Cisco Unified Communications Manager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、CAR ダイアルプランの設定ウィンドウでそのように設定されている場合、発信コールは On Net コールと分類されることがあります。P.3-3 の「ダイアルプランの設定」を参照してください。
Internal	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified Communications Manager ネットワーク内で終端する(ゲートウェイまたはトランクを使用しない) クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、PSTN 経由で送出される国際電話
Incoming	Cisco Unified Communications Manager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified Communications Manager ネットワークに入る着信コール
Tandem	Cisco Unified Communications Manager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイ経由で Cisco Unified Communications Manager ネットワークに入り、ゲートウェイ経由で Cisco Unified Communications Manager ネットワークから外部に転送される着信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

ステップ 3 [Select QoS] 領域で、レポートに含める音声品質カテゴリのチェックボックスをオンにします。
P.4-6 の「QoS 値の定義」で設定するパラメータが、すべての音声品質カテゴリの基準になります。

表 6-3 QoS 詳細レポートの音声品質

音声品質	説明
Good	これらのコールの QoS は、可能な範囲で最高の品質を示します。
Acceptable	これらのコールの QoS は、多少低下しているが、まだ許容範囲内に含まれます。
Fair	これらのコールの QoS は、低下しているが、まだ使用可能範囲内に含まれます。
Poor	これらのコールの QoS は、十分な品質とは言えません。
NA	これらのコールは、既定の QoS カテゴリのどの基準にも一致しません。

ステップ 4 QoS 情報を表示する期間の日付範囲を選択します。

ステップ 5 [Select Users] フィールドで、すべてのユーザを選択するか、特定のユーザを検索します。すべてのユーザを選択するには、[Select All Users] チェックボックスをオンにします。個々のユーザを選択するには、ユーザ ID を [User Id] フィールドに入力し、[Add] ボタンをクリックします。



(注) また、提供されている検索機能を使用することもできます。P.5-18 の「ユーザの検索」を参照してください。

ステップ 6 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。CSV 形式のレポートは、20,000 レコードまでに制限されている点に注意してください。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。PDF 形式のレポートは、5000 レコードまでに制限されている点に注意してください。

ステップ 7 [View Report] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 8 レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

追加情報

P.6-26 の「関連項目」を参照してください。

QoS 要約レポートの設定

この項では、システムの QoS に関する要約情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

手順

ステップ 1 次の手順のいずれかを実行します。

- マネージャである場合は、[QoS] > [Summary] を選択します。
- CAR 管理者である場合は、[System Reports] > [QoS] > [Summary] を選択します。

[QoS Summary] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Available Reports] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、**ステップ 6** に進みます。または、デフォルトの [Generate New Report] を使用して、**ステップ 3** に進みます。



(注) CAR 管理者としてログインしている場合だけ、自動生成されたレポートを選択できます。マネージャとしてログインしている場合は、自動生成されたレポートはドロップダウン リストボックスに表示されません。

ステップ 3 [Select Call Types] 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。表 6-4 で、コール タイプについて説明します。

表 6-4 QoS 要約レポートのコール タイプ

コール タイプ	説明
On Net	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、トランク経由で送出され、別の Cisco Unified Communications Manager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、CAR ダイアルプランの設定ウィンドウでそのように設定されている場合、発信コールは On Net コールと分類されることがあります。P.3-3 の「ダイアルプランの設定」を参照してください。
Internal	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified Communications Manager ネットワーク内で終端する（ゲートウェイまたはトランクを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network（PSTN; 公衆電話交換網）を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、PSTN 経由で送出される国際電話
Incoming	Cisco Unified Communications Manager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified Communications Manager ネットワークに入る着信コール

表 6-4 QoS 要約レポートのコール タイプ (続き)

コール タイプ	説明
Tandem	Cisco Unified Communications Manager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイ経由で Cisco Unified Communications Manager ネットワークに入り、ゲートウェイ経由で Cisco Unified Communications Manager ネットワークから外部に転送される着信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

ステップ 4 **ステップ 2** で [Generate New Report] を選択した場合は、レポートを生成する期間の日付範囲を入力します。

ステップ 5 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。CSV 形式のレポートは、20,000 レコードまでに制限されています。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。PDF 形式のレポートは、5000 レコードまでに制限されています。

ステップ 6 [View Report] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 7 レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

ゲートウェイ別 QoS レポートの設定

CAR 管理者だけがゲートウェイ別 QoS レポートを生成します。このレポートは、選択したゲートウェイにおいて、指定した期間に、選択した QoS 基準を満たしたコールの割合 (%) を示します。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified Communications Manager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、選択したすべてのゲートウェイについて、QoS 情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

開始する前に

P.3-5 の「ゲートウェイの設定」の手順に従って、ゲートウェイを設定します。

手順

ステップ 1 [System Reports] > [QoS] > [By Gateways] を選択します。

[QoS based on Gateways] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Generate Reports] フィールドで、表 6-5 の説明に従って期間を選択します。

表 6-5 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 6 で指定した期間に QoS 基準を満たしたコールの割合 (%) を選択したゲートウェイごとに表示します。時間ごとの割合 (%) を示しています。
Day of Week	ステップ 6 で指定した期間に QoS 基準を満たしたコールの割合 (%) を選択したゲートウェイごとに表示します。曜日ごとの割合 (%) を示しています。
Day of Month	ステップ 6 で指定した期間に QoS 基準を満たしたコールの割合 (%) を選択したゲートウェイごとに表示します。該当月の日ごとの割合 (%) を示しています。

ステップ 3 [Jitter] フィールドで、使用する演算子を選択し、ジッタの値を入力します。演算子の説明については、P.6-2 の「QoS パラメータの演算子」を参照してください。

ステップ 4 [Latency] フィールドで、使用する演算子を選択し、遅延の値を入力します。演算子の説明については、P.6-2 の「QoS パラメータの演算子」を参照してください。

ステップ 5 [Lost Packets] フィールドで、使用する演算子を選択し、喪失パケット数の値を入力します。演算子の説明については、P.6-2 の「QoS パラメータの演算子」を参照してください。

ステップ 6 コール情報を表示する期間の日付範囲を選択します。

ステップ 7 レポートに含めるゲートウェイのタイプを選択するには、次のいずれかの作業を行います。

- システム内に設定されているすべてのゲートウェイを表示するには、ウィンドウの左側のカラムで [Gateway Types] をクリックします。
- ツリー構造を展開し、選択可能なゲートウェイのタイプを表示するには、[Gateway Types] の隣にあるアイコンをクリックします。
- ゲートウェイ タイプではなく、特定のルート パターン / ハント パイロットを使用するゲートウェイを選択するには、ウィンドウの左側のカラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] をクリックします。ツリー構造が展開され、設定済みのルート パターン / ハント パイロットに関連付けられているゲートウェイが表示されます。
- ツリー構造を展開し、選択可能なルート パターン / ハント パイロットを表示するには、[Route Patterns/Hunt Pilots] の隣にあるアイコンをクリックします。



(注) ウィンドウの左側のカラムで [Route Patterns/Hunt Pilots] ボックスにルート パターン / ハント パイロットの名前の一部を入力して、特定のルート パターン / ハント パイロットを検索することもできます。CAR が、検索文字列に一致するルート パターン / ハント パイロットを検索します。

ステップ 8 リストから、ゲートウェイ タイプを選択します。

ゲートウェイ名が [List of Gateways] ボックスに表示されます。



(注) [List of Gateways] ボックスには、選択したゲートウェイ タイプに設定されたゲートウェイを最大 200 まで表示できます。

ステップ 9 [List of Gateways] ボックスで、レポートに含めるゲートウェイを選択します。



(注) 1 度に最大 15 のゲートウェイに関するレポートを生成できます。16 個以上のゲートウェイを選択すると、「Select 15 or fewer gateways to generate new report」というメッセージが表示されます。

ステップ 10 下矢印アイコンをクリックして、選択したゲートウェイを [Selected Gateways] リスト ボックスに移動します。

選択したゲートウェイが、[Selected Gateways] ボックスに表示されます。

ステップ 11 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。CSV 形式のレポートは、20,000 レコードまでに制限されている点に注意してください。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。PDF 形式のレポートは、5000 レコードまでに制限されている点に注意してください。

ステップ 12 [View Report] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 13 レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、[P.5-16](#) の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

追加情報

[P.6-26](#) の「関連項目」を参照してください。

コール タイプ別 QoS レポートの設定

CAR 管理者だけがコール タイプ別 QoS レポートを生成します。このレポートは、選択したタイプのすべてのコールについて、指定した期間中のジッタ、遅延、および喪失パケットの情報を提供します。

この項では、特定のタイプのすべてのコールについて、QoS 情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified Communications Manager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

手順

ステップ 1 [System Reports] > [QoS] > [By Call Types] を選択します。

[QoS based on Call Types] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Generate Report] フィールドで、表 6-6 の説明に従って期間を選択します。

表 6-6 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 7 で指定した期間に QoS 基準を満たしたコールの割合 (%) をコールタイプごとに表示します。時間ごとの割合 (%) を示しています。
Day of Week	ステップ 7 で指定した期間に QoS 基準を満たしたコールの割合 (%) をコールタイプごとに表示します。曜日ごとの割合 (%) を示しています。
Day of Month	ステップ 7 で指定した期間に QoS 基準を満たしたコールの割合 (%) をコールタイプごとに表示します。該当月の日ごとの割合 (%) を示しています。

ステップ 3 [Jitter] フィールドで、使用する演算子を選択し、ジッタの値を入力します。演算子の説明については、P.6-2 の「QoS パラメータの演算子」を参照してください。

ステップ 4 [Latency] フィールドで、使用する演算子を選択し、遅延の値を入力します。演算子の説明については、P.6-2 の「QoS パラメータの演算子」を参照してください。

ステップ 5 [Lost Packets] フィールドで、使用する演算子を選択し、喪失パケット数の値を入力します。演算子の説明については、P.6-2 の「QoS パラメータの演算子」を参照してください。

ステップ 6 [Select Call Types] 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。表 6-7 で、コールタイプについて説明します。

表 6-7 コールタイプ別 QoS パラメータ

コールタイプ	説明
On Net	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、トランク経由で送出され、別の Cisco Unified Communications Manager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、CAR ダイアルプランの設定ウィンドウでそのように設定されている場合、発信コールは On Net コールと分類されることがあります。P.3-3 の「ダイアルプランの設定」を参照してください。
Internal	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified Communications Manager ネットワーク内で終端する(ゲートウェイまたはトランクを使用しない) クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、PSTN 経由で送出される長距離電話

表 6-7 コールタイプ別 QoS パラメータ (続き)

コールタイプ	説明
International	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、PSTN 経由で送出される国際電話
Incoming	Cisco Unified Communications Manager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified Communications Manager ネットワークに入る着信コール
Tandem	Cisco Unified Communications Manager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイ経由で Cisco Unified Communications Manager ネットワークに入り、ゲートウェイ経由で Cisco Unified Communications Manager ネットワークから外部に転送される着信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール

ステップ 7 コール情報を表示する期間の日付範囲を選択します。

ステップ 8 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。CSV 形式のレポートは、20,000 レコードまでに制限されている点に注意してください。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。PDF 形式のレポートは、5000 レコードまでに制限されている点に注意してください。

ステップ 9 [View Report] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 10 レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

追加情報

P.6-26 の「関連項目」を参照してください。

トラフィック レポートの設定

CAR 管理者だけがトラフィック要約レポートを生成できます。レポートは、指定した期間のコール量に関する情報を提供します。選択したコールタイプと QoS 音声品質カテゴリだけが含まれます。



ヒント

トラフィック要約レポートを生成するために CAR を設定する場合は、さまざまなコールタイプ (On Net、Internal、Local、Long Distance など) を選択できます。CAR は、1 時間間隔でトラフィック量を比較し、トラフィック量 (Busy Hour Call Completion [BHCC] 数) が最大の時間を特定します。総 BHCC 数を取得するには、CAR を設定するときにすべてのコールタイプを選択します。レポートタイトルの下にある個別の行に、その日の BHCC 数が表示されます。

CAR 管理者だけが内線別トラフィック要約レポートを生成できます。レポートは、指定した期間および内線のセットのコール量に関する情報を提供します。選択したコールタイプと内線だけが含まれます。



ヒント

このレポートを使用すると、部門やその他の基準、たとえばロビーの電話機や会議室の電話機などを基準として、特定のユーザグループによるコール使用状況を追跡できます。このレポートは、毎週 1 回生成するように設定できます。このレポートは、指定したユーザの使用率レベルを集計することで、使用率の高いユーザまたはグループを判別するために役立ちます。

次の各項で、トラフィック要約レポートと内線別トラフィック要約レポートを設定する方法について説明します。

- [トラフィック要約レポートの設定 \(P.6-11\)](#)
- [内線別のトラフィック要約レポートの設定 \(P.6-14\)](#)

トラフィック要約レポートの設定

CAR 管理者だけがトラフィック要約レポートを生成します。レポートは、指定した期間のコール量に関する情報を提供します。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。詳細については、[P.3-8 の「CAR システム スケジューラの設定」](#)を参照してください。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified Communications Manager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、システムのトラフィックに関する要約情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

■ トラフィック レポートの設定

手順

ステップ 1 [System Reports] > [Traffic] > [Summary] を選択します。

[Traffic Summary] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Generate Report] フィールドで、表 6-8 の説明に従って期間を選択します。

表 6-8 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	ステップ 4 で指定する期間、ステップ 5 で指定するコール タイプ、ステップ 6 で指定する QoS 値に基づいて、特定の時間帯におけるシステムの平均コール数を表示します。 ステップ 4 で指定する期間が 1 日以内の場合は、1 時間間隔でトラフィック量を比較し、トラフィック量が最大だった時間をその日の BHCC 数として特定します。
Day of Week	ステップ 4 で指定する期間、ステップ 5 で指定するコール タイプ、ステップ 6 で指定する QoS 値に基づいて、特定の曜日におけるシステムの平均コール数を表示します。
Day of Month	ステップ 4 で指定する期間、ステップ 5 で指定するコール タイプ、ステップ 6 で指定する QoS 値に基づいて、特定の日付におけるシステムの平均コール数を表示します。

ステップ 3 [Available Reports] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、ステップ 8 に進みます。または、デフォルトの [Generate New Report] を使用して、ステップ 4 に進みます。

ステップ 4 レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

ステップ 5 [Select Call Types] 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。特定の時間または 24 時間の総 BHCC 数を取得するには、すべてのコール タイプを選択します。表 6-9 で、コール タイプについて説明します。

表 6-9 トラフィック要約のコール タイプ

コール タイプ	説明
On Net	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、トランク経由で送出され、別の Cisco Unified Communications Manager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、CAR ダイアルプランの設定ウィンドウでそのように設定されている場合、発信コールは On Net コールと分類されることがあります。P.3-3 の「ダイアルプランの設定」を参照してください。
Internal	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified Communications Manager ネットワーク内で終端する（ゲートウェイまたはトランクを使用しない）クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network（PSTN; 公衆電話交換網）を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話

表 6-9 トラフィック要約のコール タイプ (続き)

コール タイプ	説明
Long Distance	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、PSTN 経由で送出される国際電話
Incoming	Cisco Unified Communications Manager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified Communications Manager ネットワークに入る着信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール



(注) グラフや表が示しているコールは、1日あたりの平均コール数で構成されています。生成されるデータが比較的小さく、選択した日付範囲が広い場合は、レポートに非常に小さな値が示され、その値は0として扱われるため、グラフが表示されません。たとえば、曜日 (Day of Week) レポートはある月曜日からの月曜日までの8日間を対象にして生成され、月曜日について示されるデータは両方の月曜日の平均コール数を表しています (各月曜日の全コール数の合計を2で割った値)。同様に時間帯 (Hour of Day) レポートで05-06に表示されるデータは、そのレポートの対象として選択した日付範囲の05時から06時までの間の1日あたりの平均コール数を示しています。

ステップ 6 [Select QoS] 領域で、レポートに含める音声品質カテゴリのチェックボックスをオンにします。
P.4-6 の「QoS 値の定義」で設定するパラメータが、すべての音声品質カテゴリの基準になります。

表 6-10 QoS 詳細レポートの音声品質

音声品質	説明
Good	これらのコールの QoS は、可能な範囲で最高の品質を示します。
Acceptable	これらのコールの QoS は、多少低下しているが、まだ許容範囲内に含まれます。
Fair	これらのコールの QoS は、低下しているが、まだ使用可能範囲内に含まれます。
Poor	音声品質が低である場合は、これらのコールの QoS が十分とは言えないことを示します。
NA	これらのコールは、既定の QoS カテゴリのどの基準にも一致しません。

ステップ 7 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。

ステップ 8 [View Report] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

■ トラフィック レポートの設定

- ステップ 9** レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

追加情報

P.6-26 の「関連項目」を参照してください。

内線別のトラフィック要約レポートの設定

CAR 管理者だけが内線別のトラフィック要約レポートを生成します。レポートは、指定した期間および内線のセットのコール量に関する情報を提供します。

この項では、ユーザの内線に基づいてトラフィック要約レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

**注意**

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified Communications Manager システムのパフォーマンスが低下することがあります。




手順

- ステップ 1** [System Reports] > [Traffic] > [Summary By Extension] を選択します。

[Traffic Summary that is based on Extension(s)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** [Generate Report] フィールドで、表 6-11 の説明に従って期間を選択します。

表 6-11 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	選択した日付範囲の特定の時間帯における選択した内線番号のシステム内での平均コール数を表示します。  (注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。
Day of Week	選択した日付範囲の特定の曜日における選択した内線番号のシステム内での平均コール数を表示します。  (注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。
Day of Month	選択した日付範囲の特定の日付における選択した内線番号のシステム内での平均コール数を表示します。  (注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。

ステップ 3 [Select Call Types] 領域で、レポートに含めるコール タイプのチェックボックスをオンにします。表 6-12 で、コール タイプについて説明します。

表 6-12 内線別のトラフィック要約のコール タイプ

コール タイプ	説明
On Net	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、トランク経由で送出され、別の Cisco Unified Communications Manager ネットワークで終端する発信コール。CAR を生成する目的で、CAR ダイアルプランの設定ウィンドウでそのように設定されている場合、発信コールは On Net コールと分類されることがあります。P.3-3 の「ダイアルプランの設定」を参照してください。
Internal	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、同じ Cisco Unified Communications Manager ネットワーク内で終端する(ゲートウェイまたはトランクを使用しない) クラスタ内コール
Local	Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) を経由して、市外局番を付けずに指定した番号や、ローカル エリア コードのいずれかを含む番号にルーティングされる市内電話
Long Distance	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、PSTN 経由で送出される長距離電話
International	Cisco Unified Communications Manager ネットワークで発信され、PSTN 経由で送出される国際電話
Incoming	Cisco Unified Communications Manager ネットワークの外部で発信され、ゲートウェイを経由して Cisco Unified Communications Manager ネットワークに入る着信コール
Others	フリーダイヤル番号や 911 などの緊急呼び出しを含むその他のすべての発信コール



(注) グラフや表が示しているコールは、1 日あたりの平均コール数で構成されています。生成されるデータが比較的小さく、選択した日付範囲が広い場合は、レポートに非常に小さな値が示され、その値は 0 として扱われるため、グラフが表示されません。たとえば、曜日 (Day of Week) レポートはある月曜日からの月曜日までの 8 日間を対象にして生成され、月曜日について示されるデータは両方の月曜日の平均コール数を表しています (各月曜日の全コール数の合計を 2 で割った値)。同様に時間帯 (Hour of Day) レポートで 05-06 に表示されるデータは、そのレポートの対象として選択した日付範囲の 05 時から 06 時までの間の 1 日あたりの平均コール数を表しています。

ステップ 4 [Select Extension(s)] グループ ボックスで、すべての内線を選択するか、ユーザを条件として内線番号を検索します。



(注) 「!」や「X」などのワイルドカードパターンを入力して内線を検索できます。「!」は、各桁が 0～9 で構成される n 桁の数字を表し、「X」は 0～9 の範囲の 1 桁の数字を表します。

■ トラフィック レポートの設定

すべての内線を選択するには、[**Select All Extensions**] チェックボックスをオンにします。ユーザを条件として内線を選択するには、ユーザの内線番号を [Extension] フィールドに入力し、[**Add Extension**] ボタンをクリックします。また、P.5-18 の「ユーザの検索」の説明に従って、提供されている検索機能を使用することもできます。

ステップ 5 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。

ステップ 6 [View Report] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 7 レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

追加情報

P.6-26 の「関連項目」を参照してください。

FAC/CMC レポートの設定

CAR 管理者だけが、Forced Authorization Code (FAC) /Client Matter Code (CMC; クライアント証明書コード) レポートを生成できます。

次の各項で、FAC/CMC レポートを設定する方法について説明します。

- [クライアント証明書コード レポートの設定 \(P.6-17\)](#)
- [許可コード名レポートの設定 \(P.6-18\)](#)
- [認証レベル レポートの設定 \(P.6-19\)](#)

クライアント証明書コード レポートの設定

CAR 管理者だけがクライアント証明書コード レポートを生成できます。発信元 (発信番号)、送信先 (着信番号)、発生日時 (コールが発信された日時)、接続時間 (秒単位のコール接続時間)、および各 CMC に関連したコール分類を示すレポートを生成できます。

次の手順では、特定のクライアント証明書コードの使用状況を示すレポートを生成する方法について説明します。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified Communications Manager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

手順

ステップ 1 [System Reports] > [FAC/CMC] > [Client Matter Code] を選択します。

[Call Details for Client Matter Code] ウィンドウに、システム内に設定されているすべてのクライアント証明書コードのリストが表示されます。

ステップ 2 [List of Client Matter Codes] ボックスで、レポートに含めるコードを選択します。



(注) クライアント証明書コードは、100 個まで選択できます。

ステップ 3 選択したコードを [Selected Client Matter Codes] ボックスに追加するには、下矢印をクリックします。

レポートには、このボックスにリストされているすべてのコード (データを取得できるもの) が含まれます。

ステップ 4 [From Date] と [To Date] のプルダウン リスト ボックスで、クライアント証明書コード情報を表示する日付範囲を入力します。

ステップ 5 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。CSV 形式のレポートは、20,000 レコードまでに制限されている点に注意してください。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。PDF 形式のレポートは、5000 レコードまでに制限されている点に注意してください。

ステップ 6 [View Report] をクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 7 レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

許可コード名レポートの設定

CAR 管理者だけが許可コード名レポートを生成できます。発信元 (発信番号)、送信先 (着信番号)、発生日時 (コールが発信された日時)、接続時間 (秒単位のコール接続時間)、および選択された各許可コード名に関連したコール分類を示すレポートを生成できます。



(注)

セキュリティを確保するため、許可コードは表示されず、代わりに許可コード名 (説明) が表示されます。

次の手順では、特定の許可コード名の使用状況を示すレポートを生成する方法について説明します。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified Communications Manager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

手順

ステップ 1 [System Reports] > [FAC/CMC] > [Authorization Code Name] を選択します。

[Call Details for Authorization Code Name] ウィンドウに、システム内に設定されているすべての許可コード名のリストが表示されます。

ステップ 2 [List of Authorization Code Names] ボックスで、レポートに含めるコード名を選択します。



(注)

コード名は、30 個まで選択できます。

- ステップ 3** 選択したコード名を [Selected Authorization Code Names] ボックスに追加するには、下矢印をクリックします。
- レポートには、このボックスにリストされているすべてのコード名（データを取得できるもの）が含まれます。
- ステップ 4** [From Date] と [To Date] のドロップダウン リスト ボックスで、許可コード名情報を表示する日付範囲を入力します。
- ステップ 5** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。CSV 形式のレポートは、20,000 レコードまでに制限されている点に注意してください。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。PDF 形式のレポートは、5000 レコードまでに制限されている点に注意してください。
- ステップ 6** [View Report] をクリックします。
- レポートが表示されます。
- ステップ 7** レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

追加情報

P.6-26 の「関連項目」を参照してください。

認証レベル レポートの設定

CAR 管理者だけが認証レベル レポートを生成できます。発信元（発信番号）、送信先（着信番号）、発生日時（コールが発信された日時）、接続時間（秒単位のコール接続時間）、および選択された各認証レベルに関連したコール分類を示すレポートを生成できます。

次の手順では、特定の認証レベルの使用状況を示すレポートを生成する方法について説明します。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified Communications Manager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

手順

- ステップ 1** [System Reports] > [FAC/CMC] > [Authorization Level] を選択します。
- [Call Details by Authorization Level] ウィンドウに、システム内に設定されているすべての認証レベルのリストが表示されます。
- ステップ 2** [List of Authorization Levels] ボックスで、レポートに含めるレベルを選択します。

ステップ 3 選択したレベルを [Selected Authorization Levels] ボックスに追加するには、下矢印をクリックします。

レポートには、このボックスにリストされているすべてのレベル（データを取得できるもの）が含まれます。



(注) 生成されるのは、ルート パターンに関連付けられている FAC 認証レベル レポートのみです。

ステップ 4 [From Date] と [To Date] のドロップダウン リスト ボックスで、認証レベル情報を表示する日付範囲を入力します。

ステップ 5 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。CSV 形式のレポートは、20,000 レコードまでに制限されている点に注意してください。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。PDF 形式のレポートは、5000 レコードまでに制限されている点に注意してください。

ステップ 6 [View Report] をクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 7 レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

追加情報

P.6-26 の「関連項目」を参照してください。

迷惑呼詳細レポートの設定

CAR 管理者だけが迷惑呼詳細レポートを生成します。レポートには、特定の日付範囲の迷惑呼について、発生時刻、終了時刻、接続時間（秒単位）、発生元（発信番号）、送信先（着信番号）、発信元デバイス、送信先デバイス、およびコール分類が表示されます。

この項では、迷惑呼詳細レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified Communications Manager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

手順

- ステップ 1** [System Reports] > [Malicious Call Details] を選択します。

[Malicious Call Details] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [From Date] ドロップダウン リスト ボックスで、迷惑呼詳細を表示する範囲の開始年月日を選択します。
- ステップ 3** [To Date] ドロップダウン リスト ボックスで、迷惑呼詳細を表示する範囲の終了年月日を選択します。
- ステップ 4** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。CSV 形式のレポートは、20,000 レコードまでに制限されている点に注意してください。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。PDF 形式のレポートは、5000 レコードまでに制限されている点に注意してください。
- ステップ 5** レポートを表示するには、[View Report] をクリックします。

レポートが表示されます。
- ステップ 6** レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」を参照してください。

追加情報

P.6-26 の「関連項目」を参照してください。

その他のマニュアル

- Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド

優先コール要約レポートの設定

CAR 管理者だけが優先コール要約レポートを生成します。レポートには、[Hour of Day]、[Day of Week]、または [Day of Month] で選択した優先値についてのコール要約が表示されます。

この項では、優先コール要約レポートを生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified Communications Manager システムのパフォーマンスが低下することがあります。




手順

ステップ 1 [System Reports] > [Precedence Call Summary] を選択します。

[Call Summary by Precedence] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Generate Reports] フィールドで、表 6-13 の説明に従って期間を選択します。

表 6-13 Generate Report フィールド

パラメータ	説明
Hour of Day	<p>選択した日付範囲の特定の時間帯における選択した内線番号のシステム内での平均コール数を表示します。</p> <p> (注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。</p>
Day of Week	<p>選択した日付範囲の特定の曜日における選択した内線番号のシステム内での平均コール数を表示します。</p> <p> (注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。</p>
Day of Month	<p>選択した日付範囲の特定の日付における選択した内線番号のシステム内での平均コール数を表示します。</p> <p> (注) 日付と時間の範囲は 1 か月以内にする必要があります。</p>

ステップ 3 [Select Precedence Levels] フィールドで、レポートに含める優先レベルのチェックボックスをオンにします。または、[Select All] をクリックして、すべての優先レベルのチェックボックスをオンにします。

表 6-14 コールの優先レベル

音声品質	説明
Flash Override	MLPP コールにおける最高の優先順位設定。
Flash	MLPP コールにおける上から 2 番目の優先順位設定。
Immediate	MLPP コールにおける上から 3 番目の優先順位設定。
Priority	MLPP コールにおける上から 4 番目の優先順位設定。
Routine	MLPP コールにおける最低の優先順位設定。



(注) 優先レベルのチェックボックスをオフにするには、**[Clear All]** をクリックします。

- ステップ 4** [From Date] ドロップダウン リスト ボックスで、優先コール要約情報を表示する範囲の開始年月日を選択します。
- ステップ 5** [To Date] ドロップダウン リスト ボックスで、優先コール要約情報を表示する年月日を選択します。
- ステップ 6** Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で **[CSV]** を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で **[PDF]** を選択します。
- ステップ 7** レポートを表示するには、**[View Report]** をクリックします。
- レポートが表示されます。
- ステップ 8** レポートを電子メール受信者にメールで送信するには、[P.5-16](#) の「レポートのメール送信」を参照してください。

追加情報

[P.6-26](#) の「関連項目」を参照してください。

システム概要レポートの設定

CAR 管理者だけがシステム概要レポートを生成します。この 1 つのレポートで、一連のシステムレポート全体を示します。

システムが自動的に生成したレポートを表示することもできれば、新しいレポートを生成することもできます。CAR 管理者だけがレポートの自動生成をスケジュールできます。詳細については、P.3-8 の「CAR システム スケジューラの設定」を参照してください。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified Communications Manager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

この項では、Cisco Unified Communications Manager システムに関する要約情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [System Reports] > [System Overview] を選択します。

[System Overview] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Available Reports] フィールドで、自動生成レポートを選択し（使用可能な場合）、**ステップ 6** に進みます。または、デフォルトの [Generate New Report] を使用して、**ステップ 3** に進みます。

ステップ 3 レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

ステップ 4 [List of Reports] で、生成するレポートを強調表示し、右矢印をクリックして選択します。

選択したレポートが、[Selected Reports] リスト ボックスに表示されます。



ヒント

キーボードの **Ctrl** キーを押しながらレポートをクリックしていくと、複数のレポートを一度に強調表示できます。

ステップ 5 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。CSV 形式のレポートは、20,000 レコードまでに制限されている点に注意してください。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。PDF 形式のレポートは、5,000 レコードまでに制限されている点に注意してください。

ステップ 6 [View Report] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 7 レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

追加情報

P.6-26 の「関連項目」を参照してください。

CDR エラー レポートの設定

CAR 管理者だけが CDR エラー レポートを生成します。このレポートは、CAR の Billing_Error テーブルに含まれているエラー レコードの数に関する統計情報、およびエラーの理由を提供します。

この項では、CDR エラーに関する情報を生成、表示、またはメールで送信する方法について説明します。



注意

CAR は混雑していない時間帯にだけ使用してください。混雑した時間帯に使用すると、データ収集機能とレポート生成機能によって、Cisco Unified Communications Manager システムのパフォーマンスが低下することがあります。

手順

ステップ 1 [System Reports] > [CDR Error] を選択します。

[CDR Error] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 レポートを生成する期間の日付範囲を選択します。

ステップ 3 Comma Separated Value (CSV; カンマ区切り形式) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [CSV] を選択します。Portable Document Format (PDF) 形式でレポートする場合は、[Report Format] 領域で [PDF] を選択します。

ステップ 4 [View Report] ボタンをクリックします。

レポートが表示されます。

ステップ 5 レポートをメールで送信する場合は、[Send Report] ボタンをクリックします。レポートを送信するには、P.5-16 の「レポートのメール送信」で説明されている手順に従います。

追加情報

P.6-26 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- [CDR エラー レポートの結果 \(P.11-32\)](#)
- [システム概要レポートの結果 \(P.11-30\)](#)
- [レポート自動生成の有効化とカスタマイズ \(P.4-8\)](#)
- [優先コールの要約レポートの結果 \(P.11-28\)](#)
- [CDR Analysis and Reporting の概要 \(P.1-1\)](#)
- [トラフィック要約レポートの結果 \(P.11-22\)](#)
- [トラフィック要約レポートの設定 \(P.6-11\)](#)
- [内線別のトラフィック要約レポートの設定 \(P.6-14\)](#)
- [コールタイプ別 QoS レポートの結果 \(P.11-20\)](#)
- [ゲートウェイ別 QoS レポートの設定 \(P.6-6\)](#)
- [ゲートウェイ別 QoS レポートの結果 \(P.11-19\)](#)
- [コールタイプ別 QoS レポートの設定 \(P.6-8\)](#)
- [QoS 詳細レポートの設定 \(P.6-3\)](#)
- [QoS 要約レポートの結果 \(P.11-18\)](#)
- [QoS 値の定義 \(P.4-6\)](#)
- [QoS 詳細レポートの結果 \(P.11-16\)](#)
- [QoS 要約レポートの設定 \(P.6-5\)](#)